

# 平成29年度事業報告

平成29年3月1日から平成30年2月28日までの事業報告

## 1 会員状況

### 1.1 法人会員及び団体会員

級 種	平成29年度末	平成28年度末	増 減
1 級	9 社	9 社	±0 社
2 級	4 社	4 社	±0 社
3 級	20 社	21 社	-1 社
4 級	33 社	33 社	±0 社
5 級	70 社	69 社	+1 社
計	136 社	136 社	±0 社

### 1.2 個人会員

種 別	平成29年度末	平成28年度末	増 減
正会員	1001 名	1028 名	-27 名
(内・名誉会員)	9 名	10 名	-1 名
(内・永年会員)	30 名	30 名	±0 名
学生会員	80 名	109 名	-29 名
アジア海外会員	15 名	15 名	±0 名
アジア海外学生会員	2 名	4 名	-2 名
計	1098 名	1156 名	-59 名

### 1.3 名誉会員（9名）

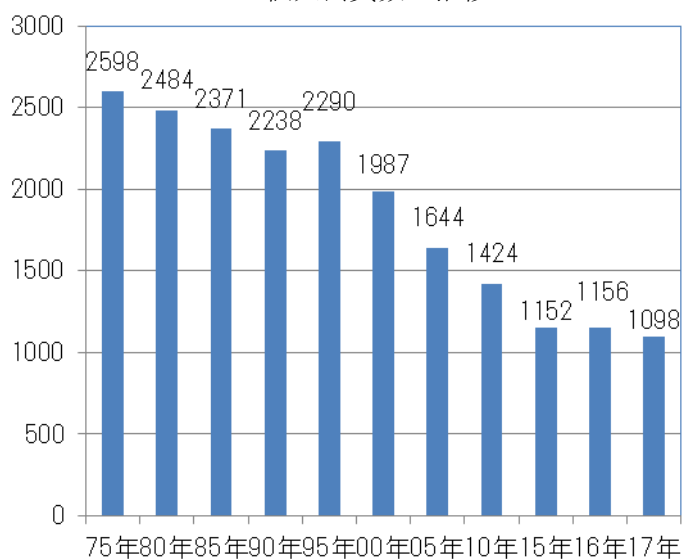
阿部 正彦 池田 功 伊藤 俊洋 荻野 圭三 北原 文雄 島崎 弘幸  
田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄

### 1.4 日本油化学会フェロー（11名）

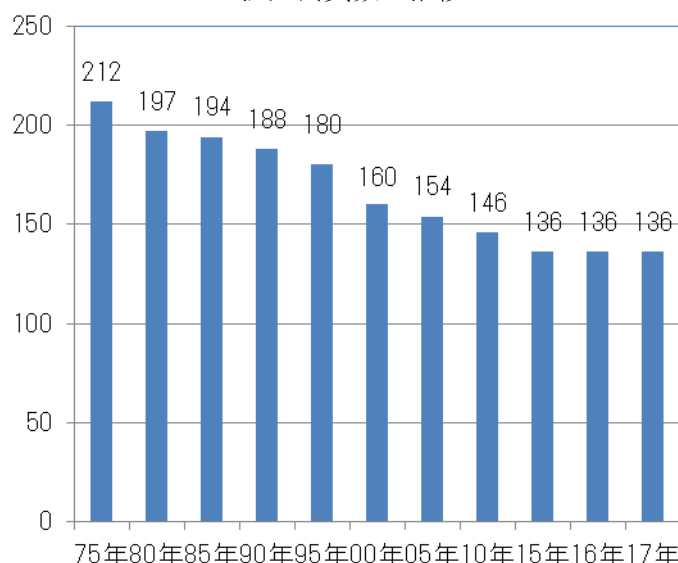
石上 裕 今栄東洋子 岩橋 槇夫 岡崎 三代 佐藤 清隆 菅野 道廣  
妹尾 学 武田 徳司 師井 義清 山根 恒夫 Ching T. Hou

### 1.5 会員数の推移（個人・法人）

個人会員数の推移



法人会員数の推移



## 2 会務

### 2.1 総会

第 63 回定時総会を、平成 29 年 4 月 24 日、油脂工業会館 9 階会議室で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて 97 名の社員（代議員）の出席を得て議案を審議した。平成 28 年度事業報告及び決算案が審議され、原案通り承認・可決された。また、会費規程の改定が審議され、原案通り承認・可決された。さらに、平成 29 年度の役員（理事 15 名、監事 3 名）の選任が行われた。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

- ① 日本油化学会フェローに、北里大学名誉教授 岩橋 楨夫 氏が推戴された。
- ② 平成 28 年度日本油化学会功績賞は、東京学芸大学名誉教授 滝澤 靖臣 氏に贈呈された。
- ③ 平成 28 年度日本油化学会学会賞が次の各氏に贈呈された。

東京工科大学応用生物学部 遠藤 泰志 氏

高知工科大学環境理工学群 西脇 永敏 氏

- ④ 日本油化学会女性科学者奨励賞が、花王株式会社 依田 恵子 氏に贈呈された。

つづいて、講演（演題・講師：「私流の環境フレンドリーと再生エネルギーー非 DDS リポソームとグルコース直接形燃料電池ー」・阿部正彦氏 [東京理科大学教授・本会元会長]）が行われ総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、ラグナヴェール TOKYO で開催され、約 60 名が出席した。

### 2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し、平成 28 年度決算案の承認、平成 29 年度会長、副会長、常務理事の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の選任（委嘱）、日本油化学会フェロー、功績賞、女性科学者奨励賞及び日本油化学会学会賞等の承認、平成 31 年度（第 58 回）年会開催地の決定及び実行委員長の選任等、重要案件について審議し決議した [出席理事 延 61 名、出席監事 延 14 名]。別に、定款第 34 条に基づく決議（書面による審議と同意）を 2 回実施し、内閣府に定期的に提出する書類（平成 30 年度事業計画等に係る提出書類等および平成 28 年度事業報告等に係る提出書類等）を承認した。

### 2.3 運営委員会及び業務委員会等開催状況

運営委員会を 6 回、支部長連絡会を 1 回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	5 回	ホームページ更新委員会	9 回
財務委員会	2 回	年会改革推進委員会	3 回
企画・部会統括委員会	4 回	企画・部会統括委員会全体会議	2 回
規格試験法委員会(含小委員会)	8 回	学会賞等選考委員会	2 回
編集委員会(わおサイエンス)	5 回	役員等候補者推薦委員会	2 回
編集委員会(JOS)	1 回	学術専門委員会	1 回
国際交流委員会	1 回	功績賞等推薦委員会	2 回

**運営委員会**は、将来構想委員会の提言をもとに年会改革を進めることにより、当会の継続的な活性化・財務基盤の安定を図るべく検討を進め、次期年会より、できることから改革案を実施することとした。**総務委員会**は、諸規程類の改定を進める一方、ホームページのリニューアル作業を進めた。学会案内等、基本的な部分から改定を進め、第 2 段階として支部・部会等のリニューアルを進める。**財務委員会**は、平成 28 年度決算案を理事会に上程した。また平成 30 年度予算書を理事会に上程するとともに、平成 29 年度決算書(案)を作成した。**企画・部会統括委員会**は、フレッシュマンセミナーを企画・開催した。また、アドバンスセミナーの見直しを行い、平成 29 年度から実践講座（油脂・界面）としてスタートした。**規格試験法委員会**は、『基準油脂分析試験法（2018 年増補版）』の刊行のため、新規試験法のまとめ及び 2013 年版の修正等を進めた。また、英文試験法の増補・刊行のための準備を進め、来年度早々

に 2018 増補改訂版の刊行を決定した。さらに、JOS 編集委員会およびオレオサイエンス編集委員会は、「JOS」誌及び「オレオサイエンス」誌の編集・発行（Web 上公開も含む）を行った。国際交流委員会は、第 57 回日本油化学会年会と併催される AOCS とのジョイントシンポジウムの準備を進めた。Biotechnology, Edible Applications, Health and Nutrition, Surfactants and Detergents の 4 つのセッションで 32 名の講演者を決定した。また、2017 年 5 月に米国オーランドにて開催された ISF Executive Board Meeting にて日本油化学会の活動報告を行った。

### 3 事業報告

#### 3.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公 1）

##### 3.1.1 研究成果の公開

##### 3.1.1.1 第 5 6 回日本油化学会年会／The Asian Conference on Oleo Science 2017 (ACOS2017)

第 5 6 回日本油化学会年会、The Asian Conference on Oleo Science 2017 (ACOS2017)を、酒井秀樹 第 5 6 回年会実行委員長、河合武司 ACOS2017 実行委員長を中心に実行委員会を組織し、平成 29 年 9 月 11 日（月）～13 日（水）に東京理科大学神楽坂キャンパスで同時開催した。

参加者は 680 名、講演の合計が 283 件と盛況であった。Plenary 講演は、Prof. L - J. Chen (National Taiwan University) による”Wetting and Phase Behaviour in Ternary Mixtures of the Type Water + Oil + Surfactant CiEj”，Prof. B. Narayan (Food Safety & Standards Authority of India) による “Alleviation of a Parkinsonian Toxin Induced Oxidative Stress by Squalene”，首都大学東京・加藤 直教授による”Shear-Induced Structural Transition in the Surfactant Lyotropic Phase” の 3 件であった。また、特別講演として、Prof. P. Baglioni (University of Florence) に”Mechanism of Polymer Removal using Amphiphilic Formulations” のタイトルでご講演いただいた。さらに、主題シンポジウムとして、”New Trends in Interfacial Science Created by Structural Analysis in Solutions” を実施し、多くの聴講者を集めた。また、例年同様、日本油化学会各専門部会によるシンポジウム、ならびにマスターズクラブ講演会を開催した。

実行委員会は、第 14 回ヤングフェロー賞に Dong Woog Lee 氏 (Ulsan National Institute of Science and Technology)、Ke-Hsuan Wang 氏 (東京理科大学) を選考し、表彰した。また Student Award (口頭発表) を 9 件、Poster Award を 16 件選考した。

会 期 : 平成 29 年 9 月 11 日（月）～13 日（水）

会 場 : 東京理科大学神楽坂校舎

内 容	①参加者総数	680 名
	②講演件数：発表総数	283 題
	一般講演：	208 題
	・口頭講演	96 題
	・ポスター	112 題
	依頼講演：	75 題
	・Plenary 講演	3 題
	・特別講演	1 題
	・Keynote 講演	25 題
	・Invited 講演	9 題
	・受賞講演	4 題
	・主題シンポジウム	4 題
	・部会シンポジウム	18 題
	・マスターズクラブ講演会	1 題

③懇親会

日 時：平成29年9月12日（火）18時～20時

会 場：ホテルメトロポリタンエドモント

参加者：約300名

3.1.1.2 日本油化学会会誌（論文誌・会員誌）の発行

(1) 「Journal of Oleo Science」誌 第66巻 第1号～12号 総ページ数 1,401 ページ

論文誌として、冊子版と電子版を発行しており、第66巻は原著論文155件、特集号（6月、9月）に関する Editorial Message 2 件、Annual Index を掲載した。6月特集（Topics of the 3rd International Conference on Rice Bran Oil (ICRBO 2016)）には4件（うち総説2件）、8月特集（Symposium on the Chemistry of Terpenes, Essential Oils and Aromatics (TEAC)）には11件（うち総説2件）掲載した。また、ページ外で、投稿規定、入会案内等を掲載した。なお、Impact Factor (IF と略)については、2016年は1.076、5年平均IFは1.090であった。J-STAGE（電子版）では、総説はXML形式でも公開、WEB公開でのカラー版や電子付録（Supporting Information）の登載、および早期公開を継続推進している。

掲載内容	報文	130 件
	ノート・速報	17 件
	総説	8 件

(2) 「オレオサイエンス」誌 第17巻 第1号～12号 総ページ数 678 ページ

特集12件を企画したほか、巻頭言、表彰、会務、若手研究者紹介、主催報告、学会情報、研究室紹介、書評、追悼などに加え、学術専門委員会と協働した Topics in Oleo Science を新たに連載するなど、会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。また、総説中の図をわかりやすくするために一部カラー印刷を行った。ページ外では、会告（年会・ACOS プログラムを含む）、目次等を、342 ページ編集した。第15巻の総説類の J-STAGE 公開も実施した。

掲載内容	特集総説・受賞総説	44 件
	若手研究者紹介	4 件
	Topics in Oleo Science	4 件
	総説・寄稿・トピックス	4 件
	油脂関連情報	55 件

（会員からの寄稿3件を含む。特許情報はまとめて1件と計算）

その他（巻頭言、表彰、会務、主催報告、学会情報、研究室紹介、書評、追悼など）

3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー（油脂）、フレッシュマンセミナー（界面）の2件を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには2009年3月に改訂・刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用（改訂第2版）」および「界面と界面活性剤（改訂第2版）」を使用した。参加者数は延べ176名であった。また、本年度よりフレッシュマンセミナーを終了した中堅の研究者・技術者を対象に、より実践的なセミナーとして、油脂実践講座、界面実践講座をスタートさせた。参加者数は延べ140名であった。

若手の会委員会は、8月にサマースクールとして、「油化学・界面科学の研究開発に役立つ最新トピックス」をテーマとした講演会を開催し、産学官の若手研究者の交流を深めた。

### 3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成28年度の主な受賞者を、本報告の会務・総会の項で紹介した。平成29年度も、若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞、ヤングフェロー賞、油脂工業会館学生奨励賞の授与者を選考した。また、研究成果を表彰するため、エディター賞、オレオサイエンス賞、ベストオーサー賞等授与者を選考した。また本会の発展や油化学分野の科学・技術の発展に功労のあった会員として本会フェローへの推戴者および功績賞、学会賞等の選考も実施した。第64回定時総会の席上等で表彰する。

### 3.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業（公2）

油脂および油脂製品の研究や品質管理等における油脂の品質を評価するための基準となる分析試験法（公的試験法）として刊行した『基準油脂分析試験法2013年版』について、従来の試験法の見直し作業の実施、新規の試験法の探索、新規の試験法の策定を行うとともに、英文版基準油脂分析試験法について必要な見直しと増補のための作業を進めた。また、学生や研究者、工場技術者向けの界面活性剤の基準書として利用できる、平成28年度発行『界面活性剤評価・試験法』改訂第2版の普及を図るとともに、必要な見直しを行った。品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、10月に第17回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図った。セミナー参加者は延べ42人であった。また、界面活性剤評価・試験法に関しては別事業（公1）に実施の場を移して7月にセミナーを開催した。参加者は延べ83人であった。

### 3.3 地域における学術の振興と普及を行う事業（公3）

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

#### [支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会3回、幹事会1回
- ・東海支部 常任幹事会3回、支部合同役員会1回、支部将来計画委員会1回
- ・関西支部 常任幹事会1回、常任幹事会・幹事会合同会議3回

#### [支部の行事開催]

各支部による講演会、セミナー等の行事は、延11回開催し、参加者数は延651名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延47名であった。

- |       |      |    |      |      |    |     |
|-------|------|----|------|------|----|-----|
| ・関東支部 | 開催回数 | 3回 | 参加者数 | 159名 | 講師 | 12名 |
| ・東海支部 | 開催回数 | 3回 | 参加者数 | 170名 | 講師 | 14名 |
| ・関西支部 | 開催回数 | 5回 | 参加者数 | 322名 | 講師 | 21名 |

このうち、(一財)油脂工業会館共催の地区講演会は、6月に大分市（関西支部）、11月に長野市（東海支部）、東広島市（関西支部）、盛岡市（関東支部）の4ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い、地域における学術振興・普及に努めた。

### 3.4 学術専門分野の活性化事業（公4）

学術専門分野の活性化については、前年同様、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会および食品油脂機能構造部会が独自の活動を展開し、それぞれの専門分野を深耕した。また、マスターズクラブは、学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開した。講演会、セミナー等の行事は、延べ22回開催し、参加者は延べ1,037名を数えた。

**オレオマテリアル部会**は、9月年会で部会シンポジウムを開催した。また、本年度より油化学分野における機能性分子の合成や新材料創製に関わる研究開発について、より活発な意見交換や情報提供を行うために、「オレオマテリアル学術交流会」と称したセミナーをスタートした。

**界面科学部会**は、9月年会で部会シンポジウムを開催した。また、「化粧品・洗浄料の先端技術とその応用」をテーマとした第64回界面科学部会秋季セミナーを開催した。その他、東海、九州の各地区セミナー・講演会を開催した。**洗浄・洗剤部会**は、9月の年会で『『良きモノづくりに』に魅せられ追及した40年』のタイトルで、元花王株式会社妻鳥正樹氏の講演会を開催した。また、第49回洗浄に関するシンポジウムを開催した。**ライフサイエンス・産業技術部会**は、6月に「フライ油の科学」と題した部会セミナーを実施した。さらに、9月年会で「初心者のための油脂産業技術講座」というタイトルでシンポジウムを開催した。また12月に「製パン技術の今後の課題（EUの最新製パン技術動向を参考に）」と題し、部会ワークショップを開催した。**食品油脂機能構造部会**は9月年会で「Frontier of Food Lipid Research」と題したシンポジウムを開催した。**マスターズクラブ**は、関東セミナー（3回）、東海講演会・談話会、関西見学会・講演会（2回）を開催した。

各支部及び各専門部会等は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で情報交換などを行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。